

飼料用米「月の光」の低コスト多収栽培技術の確立

要約

「月の光」の後期重点施肥による低コスト生産技術を検討したところ、総籾数が増加し、多収となった。また、経営面でも販売額と交付金の増加により収入が増え、肥料費を除いた差額が増加することが確認された。

○ 展示のねらい

飼料用米生産において、一般品種から多収品種「夢あおば」「月の光」への品種転換を推進しているが、「月の光」については収量が確保できないこと、主食用米の収益と比較すると劣る状況であることから、転換を躊躇している生産者が多い。本展示では品種転換を促進するため、主食用米以上の収益を確保できる低コスト多収栽培技術の確立に取り組んだ。

表 1 展示内容 〔目標収量(1.70mm 篩上)：544kg/10a（足利市基準単収 484kg+60kg）〕

試験区	肥料名	窒素施肥量 (kg/10a)		総窒素施肥量 (kg/10a)	現物量 (kg/10a)
		速効性	緩効性		
供試区（後期重点施肥区）	BBファイト055 ^{注1)}	4.5	4.5	9.0	30
対照区	BB飼料用米専用211 ^{注2)}	5.4	3.6		45

品種：月の光

注1) BBファイト055 [N-P₂O₅-K₂O：30(15(80(5)+S90(5)+S110(5))) -5-5]

注2) BB飼料用米専用211 [N-P₂O₅-K₂O：20(8(100(4)+S110(4))) -10-10]

○ 主な成果

表 2 収量構成要素及び収量

試験区	穂数 (本/m ²)	1 穂籾数 (粒/本)	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)	精玄米重 (1.7mm) (kg/10a)
供試区	294	105.0	88.3	21.2	577
対照区	333	82.8	88.8	21.6	530

供試区は対照区に比べ穂数は少なかったが、1 穂籾数が多く、総籾数は多かった。登熟歩合と玄米千粒重に差はなく、総籾数が多かったことから、精玄米重は 577kg/10a と目標を上回った。

経営試算では、販売額と交付金の合計から肥料費を引くと、供試区は 7,225 円/10a 対照区よりも多くなった。なお、りん酸と加里成分を同等にするため、供試区の肥料費には、PK 化成 40 号を追加して試算した。

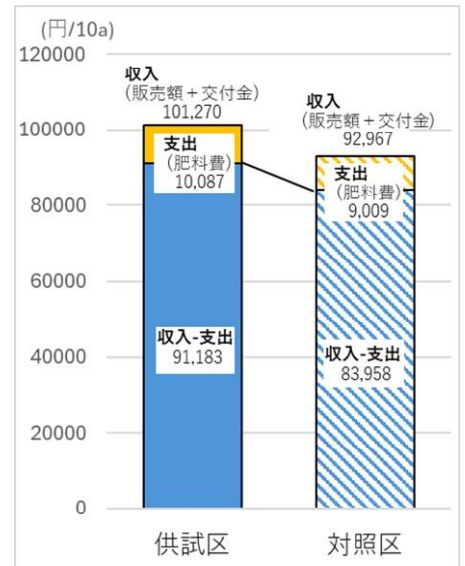


図 1 経営試算

○ 今後の方向性

栽培暦を改訂し配布することや、J A 部会等の栽培講習会や現地検討会において情報共有を行うことで、「月の光」の安定生産と作付拡大を推進する。供試した BB ファイト 055 はりん酸と加里成分が低いことから、土壌中の成分に留意し、不足することがないように指導する。

実施機関：安足農業振興事務所経営普及部 TEL 0283-23-1431 実施場所：足利市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315